がんセンター

■ スタッフ

センター長		水野　聡朗（腫瘍内科）
副センター長		小塚　祐司（病理部）
		福永　雅子（看護部）
医　師	常勤	3名
看護師	常勤	1名
事務職員	常勤	1名
	非常勤	10名

■ がんセンターの特色

がんセンターは、医学部附属病院内の各診療科の縦割りの垣根を超えて、診療科横断的に、適切ながん集学的治療、チーム医療を推進するための活動を行っています。
支援系統5部門、診療系統11部門の計16部門より構成され毎月、各部門のリーダー（医師）と県の医療保健部の担当者より構成されるリーダー会議を毎月、第一水曜日に開催し、病院内のがん医療についての情報共有や意見交換と県のがん対策の取り組みについて協議しています。

■ 活動内容

各部門のうち、がん登録部門、Tumor　Board、口腔ケア門、がん相談支援部門、教育部門、PDCAサイクル部門などの動内容についてご紹介します。

がん登録部門：がん登録部門では、三重大学医学部附属病院の院内がん登録と、三重県より委託を受けて行なう三重県がん登録（全国がん登録）を担当しています。また、都道府県がん診療連携拠点病院の役割として、県内の医療機関が正確ながん登録を行えるよう、県内各拠点病院の登録実務担当者の協力も得て、実務担当者向けの研修会を定期的に開催しています。
2021年11月26日院内がん登録2020年全国集計報告がプレスリリースされました。新聞報道でもあったように、進行がんである肝臓がんは減っていませんが、男性では胃と大腸の早期がん、女性では乳房と胃がんの登録が減少していました。また、緊急事態宣言が発令された5月は影響が顕著で、胃がんについては自覚症状の診断で11%、検診で24%減り、大腸がんに関しては0期では91.2%→64.7%、4期は99%→81%に減少しており、診察控えがあったと考えられます。ただ、三重県だけでみてみるとあまり変化なく例年通りでした。手術数など大きな影響があったのは2021年であるため、来年の集計値には影響がでる可能性があります。

Tumor　Board：がんセンターでは定期的な活動として、病院全体でTumor Boardを開催して、確定診断が困難な症例、治療が複数の診療科に関わる症例について、最適な治療方針を迅速に決定するための協議を行っています（毎月、第二水曜日の午後6時より）。これまでは、画像診断や病理診断の専門医、外科手術、化学療法、放射線療法、緩和ケア等の専門医、さらに関連の薬剤師、検査技師、放射線技師、看護師、臨床心理士、MSW等の関係者が毎回100名前後参加し、活発な討議が行なわれていました。ここ2年近くのコロナ禍では、多数参加による開催は難しいと判断し、関連する診療科に参加人数を限定して開催していましたが、感染症管理を徹底することで、2021年7月からは院内すべての方を対象としました。
骨軟部腫瘍に特化した骨軟部腫瘍カンファレンスも月1回（毎月第4月曜、18時～）の定期開催で再開されました。

PDCAサイクル部門:平成26年にがん診療連携拠点病院等の整備に関する指針が出され、診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、がん患者の療養生活の質について把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策（PDCAサイクル）を講ずることが指定要件に加えられました。
2021年の活動としては、がん質評価指標開発班会議（東京大学水流班）・研究会への参加、2021年11月に「第10回がん診療体制の質に関する調査」を実施、2022年2月1日には都道府県がん診療連携拠点病院 PDCAサイクルフォーラムに参加しました。

医科歯科連携部会研修会:口腔ケア部門の活動の一つである医科歯科連携部会は、3月24日にWEB形式で開催されました。「周術期口腔機能管理」が2012年に保険収載されてから約10年が経過したのを記念して、長く三重県の医科歯科連携に取り組んで頂きました伊勢赤十字病院野村先生に「伊勢赤十字病院における医科歯科連携と今後の課題」というタイトルで講演して頂きました。
講演会の総合討論の中で、過去の研修会おいて、医師の参加人数が少ないどの問題が指摘され、改善策について意見交換が行われました。

がんチーム医療研究会:がん医療に携わる医師、薬剤師、看護師等の多職 種連携の勉強の場として、がんチーム医療研究会を、例年9月第2週に集合形式で開催してきましたが、 2021年は完全Web形式で開催しました。一般演題は、「当院の薬剤師外来（診察前面談）への取り組み」と題して、伊勢赤十字病院薬剤部 病棟業務係長がん薬物療法認定薬剤師服部 公紀 先生に、特別講演は「アドバンスケアプランニング－ 治癒困難な患者に最善の治療を提供するために－」と題して、社会医療法人博愛会 相良病院 院長 相良 安昭先生、「アドバンスケアプランニングにおける看護師の役割～患者の意向を尊重した意思決定支援のために～」と題して、社会医療法人博愛会 顧問 医療法人宮崎博愛会 顧問 相良病院 看護部 江口 恵子 先生にご講演いただきました。

がんプロフェッショナル養成プラン：がんセンターでは、「がんプロフェッショナル養成プラン」によるがん専門医療人の育成に取り組んでおり、連携する京都大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学と研修会を開催してきました。活動の一つであるがんプロ合同シンポジウムについては、例年は海外研修という形で実施されていましたが、2021年は7月10日(土)14時～17時に富山大学で患者さんを交えてWEB形式の講演会として開催されました。テーマは「がんゲノム診療」で、講演の第2部で遺伝子パネル検査の活用をテーマにパネルディスカッションが行われました。三重大学から奥川先生が司会者として参加しました。

市民公開講座：教育部門では、がんに対する標準治療である薬物療法、手術療法、放射線療法のほか、先進医療や治験などの大学病院独自の最先端の情報を発信すべく公開講座という形で定期的に講習会を開催しております。そのうち、地域住民へのがん医療の啓発活動として、今年度も市民公開講座を開催しました。
2021年5月22日（土）に「生命の駅伝」とのジョイント公開講座は、コロナ感染症の蔓延のためハイブリット形式で開催されました。講演内容は、前半は生命の駅伝の寄付金受賞者の研究発、後半は伊佐地前病院長から、膵癌の治療に関する講演が行われました。
2021年3月6日（日）には、三重県総合文化センターにて「知ってほしい。肝臓がんについて」と題して第14回市民公開講座が現地とWEBのハイブリット形式で開催されました。伊佐地前病院長の挨拶から、消化器内科の中川先生、肝胆膵外科の水野先生、ＩＶＲ科の山中先生の各講演、後半のパネルティスカッションでは辻井CNSが加わって実施されました。参加人数は160名で、その内訳は現地80名、Webで80名でした。感染状況にもよりますが、次回もハイブリッド形式での開催を予定しています。
がん教育：県のがん対策として取り組んでいるがん教育の出前授業については、コロナ感染症のため本年度は依頼が非常に少なかったです。特に、三重大学の管理区域である中勢・伊賀地域における医療者の講師派遣の依頼はありませんでした。
2021年6月24日には県庁で協議会が開催され、教育資料の作成が行われましたが、上記のような理由ため活用できませんでした。来年度からの活用に期待をしています。

がん相談支援部門：患者さんやご家族の多様な相談内容に、相談支援専門の看護師長、がん看護専門看護師、医療ソーシャルワーカー、臨床心理士、医療事務などが応じております。国立がんセンター、県内がん拠点病院、県がん相談支援センター、県健康づくり室などと実務者会議を定期的に開催し、患者さんの相談支援機能を強化しています。そうした活動の一つとして、2021年10月2日に三重県がん相談員研修会「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）について学ぶ～がん相談員としてできることを考えよう～」をWEB形式で開催しました。特別講師に緩和ケアセンター松原先生をお招きして、ＡＣＰについて講演いただきました。

免疫療法対策チーム
当院でも平成30年7月に免疫療法対策チームが結成され、免疫関連有害事象（immune‐related adverse events, irAE）を中心とするさまざまな有害事象に関わる診療科の医師、薬剤師、看護師、医療安全管理部とともに活動をしています。
2021年9月27日に令和3年度の第1回の会議が開始されました。院内でのirAEの発症状況の報告、がん免疫療法有害事象対策院内マニュアルの改訂が審議され、特にマニュアル改訂では、治療中のコロナワクチン接種についての文言が追加されました。

ワールドキャンサーデーライトアップイベント:
2021年2月4日（火）のワールドキャンサーデーに合わせて毎年開催されているライトアップイベントに今年も参加しました。患者さんの憩いスペースの窓を青色とオレンジ色でライトアップされました。

https://www.hosp.mie-u.ac.jp/ca-center/